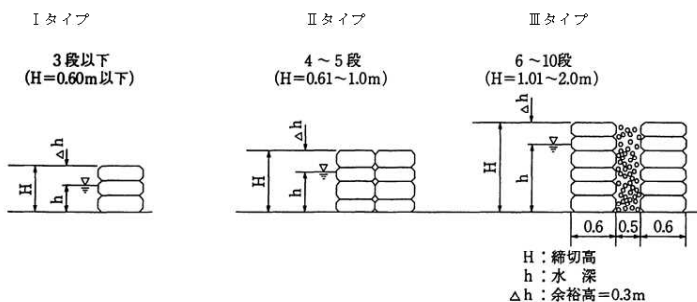
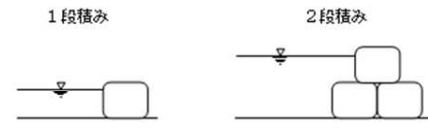
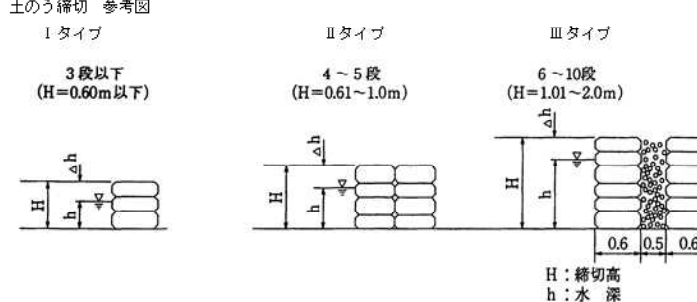
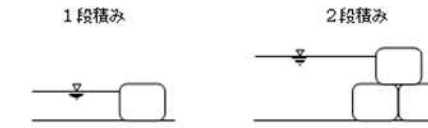


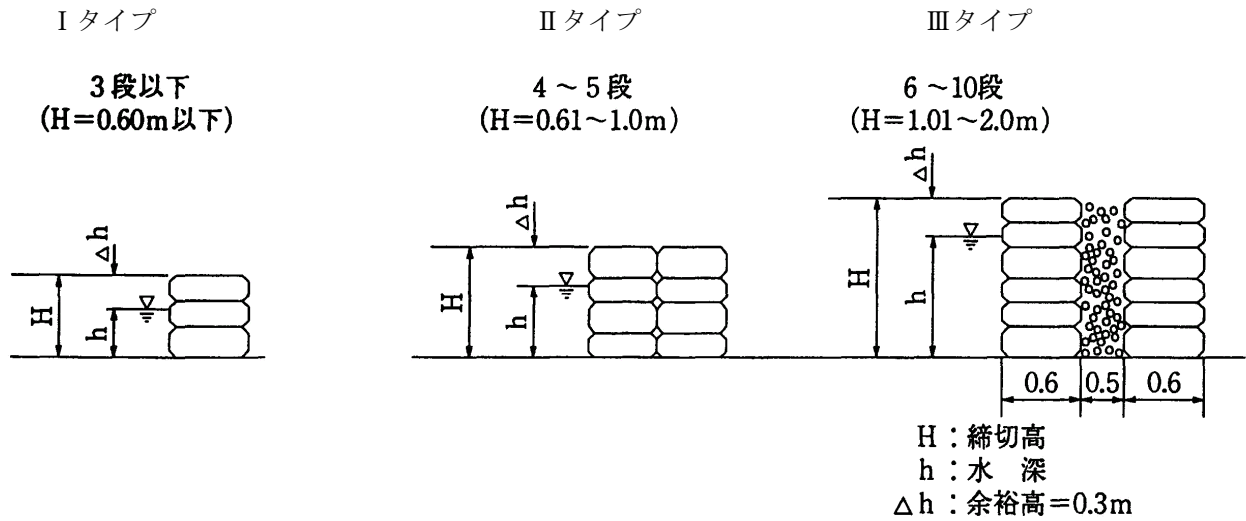
土木工事積算基準の **改定**・追加・訂正

適用年月日（令和5年（2023年）4月1日以降積算基準日適用）

区分	ページ	改定	現行	備考
共通編 105 仮設工 運用資料	仮設-9	<p>105-120 土のう工</p> <p>1. 土のう締切 参考図</p> <p>Iタイプ IIタイプ IIIタイプ</p> <p>3段以下 (H=0.60m以下) 4~5段 (H=0.61~1.0m) 6~10段 (H=1.01~2.0m)</p>  <p>H: 締切高 h: 水深 Δh: 余裕高=0.3m</p> <p>2. 大型土のう 留意事項</p> <p>1) 大型土のうは、<u>φ1100mm、高さ1100mm(耐候性)</u>を標準とし、<u>耐用年数については工程を考慮し、適切に選択すること。</u></p> <p>2) <u>転用回数</u>の制限はないが、<u>受注者の責によらない現場条件等</u>により、<u>転用できないと判断できる場合は必要に応じて設計変更すること。</u></p> <p>3) 使用回数は、<u>工事数量総括表の摘要欄</u>に明示し、必要に応じて設計変更すること。</p> <p>4) 移設については、<u>設置歩掛</u>を準用する。</p> <p>5) 数量は1個当たり1.1m(幅)×<u>1.1m</u>(高さ)により算出する。</p> <p>1段積み 2段積み</p>  <p>6) 撤去後の袋材の処分費及び残土処理費が必要な場合は別途計上する。</p> <p>7) 中詰土は現地の有材を使用した場合のものであり、土砂が現地でない場合は別途考慮のこと。</p>	<p>105-120 土のう工</p> <p>1. 土のう締切 参考図</p> <p>Iタイプ IIタイプ IIIタイプ</p> <p>3段以下 (H=0.60m以下) 4~5段 (H=0.61~1.0m) 6~10段 (H=1.01~2.0m)</p>  <p>H: 締切高 h: 水深 Δh: 余裕高=0.3m</p> <p>2. 大型土のう 留意事項</p> <p>1) 大型土のうは、φ1100mm、高さ1080mmを標準とする。</p> <p>2) 転用回数は1回(転用率100%)を標準とする。なお、現場条件により、<u>転用回数を適宜増減すること</u>ができる。</p> <p>(<u>転用回数を増える場合</u>)</p> <p>①陸上で使用する場合、②短期間使用する場合、③日陰で使用する場合等</p> <p>(<u>転用できないと判断できる場合</u>)</p> <p>①重機足場として使用する場合、②設置後6ヶ月程度以上経過した場合等</p> <p>3) 使用回数は、<u>工事数量総括表の摘要欄</u>に明示し、必要に応じて設計変更すること。</p> <p>4) 移設については、<u>設置歩掛</u>を準用する。</p> <p>5) 数量は1個当たり1.10(幅)×<u>1.08</u>(高さ)により算出する。</p> <p>1段積み 2段積み</p>  <p>6) 撤去後の袋材の処分費及び残土処理費が必要な場合は別途計上する。</p> <p>7) 中詰土は現地の有材を使用した場合のものであり、土砂が現地でない場合は別途考慮のこと。</p>	<p>実態に 合わせ 取扱い 改定</p>

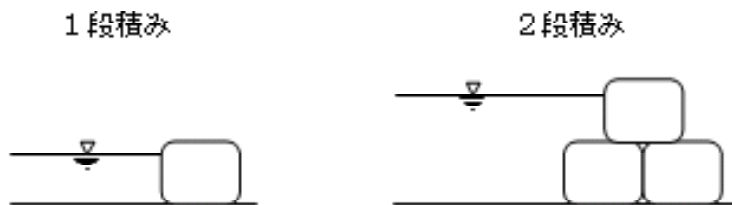
105-120 土のう工

1. 土のう締切 参考図



2. 大型土のう 留意事項

- 1) 大型土のうは、 $\phi 110\text{cm}$ 、高さ 110cm （耐候性）を標準とし、耐用年数については工程を考慮し、適切に選択すること。
- 2) 転用回数の制限はないが、受注者の責によらない現場条件等により、転用できないと判断できる場合は必要に応じて設計変更すること。
- 3) 使用回数は、工事数量総括表の摘要欄に明示し、必要に応じて設計変更すること。
- 4) 移設については、設置歩掛を準用する。
- 5) 数量は1個当たり 1.1m （幅） $\times 1.1\text{m}$ （高さ）により算出する。



- 6) 撤去後の袋材の処分費及び残土処理費が必要な場合は別途計上する。
- 7) 中詰土は現地の有材を使用した場合のものであり、土砂が現地にない場合は別途考慮のこと。